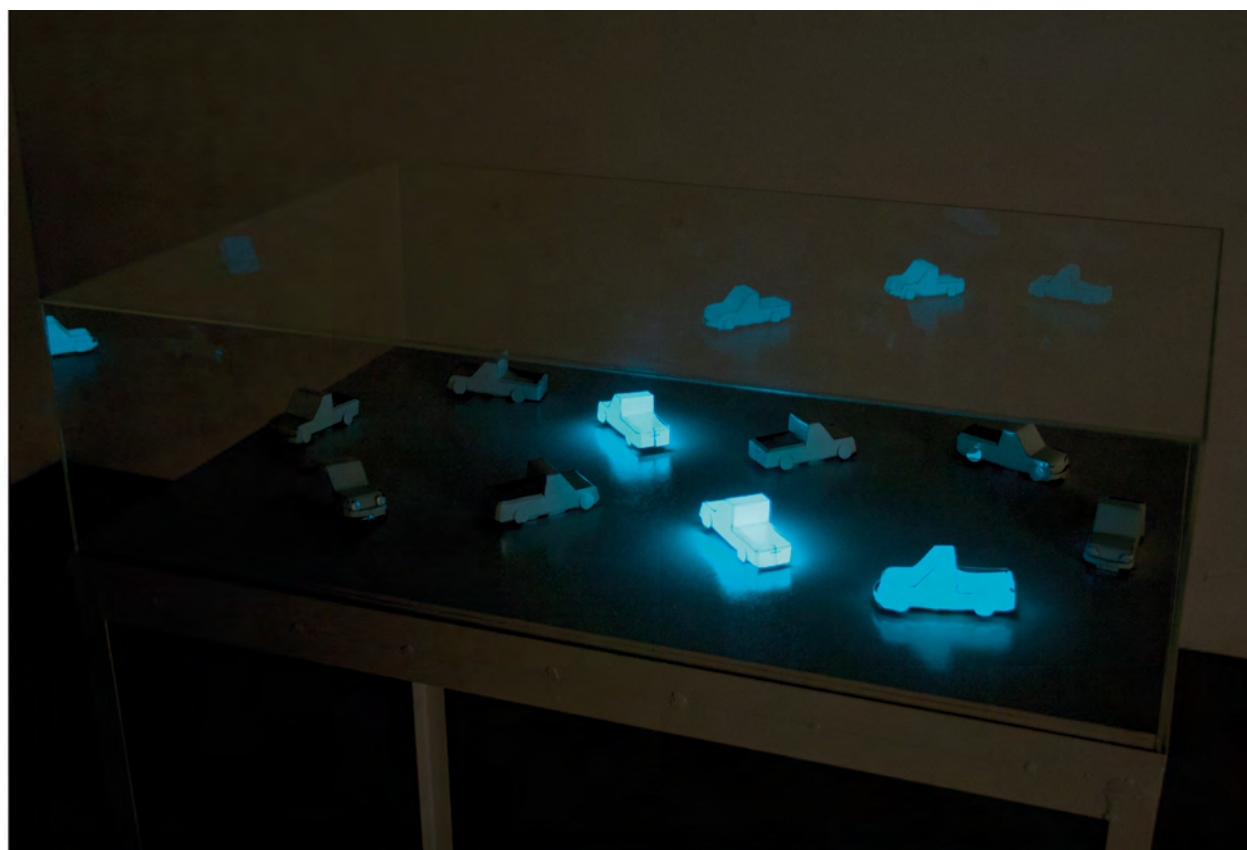


Lightning Trace

大 き さ : h120 × w90 × d60cm
素 材 : 有機EL シート、IC、リレー、コンバーター、鉄、プラスチック、100v 電源
発表場所 : 国展 (新国立美術館)
発 表 年 : 2011 年 4 月 27 日 - 5 月 9 日

有機 EL シートを使用した最初の作品は、2007 年発表の作品「こころの風景」において、紙飛行機のノスタルジックなイメージと音もなく飛ぶステルス戦闘機の対比をテーマとしたものであった。今回は子供の頃遊んだ木製のトラックの記憶と、それがピーターパンの妖精ティンカーベルのように光の粒を振りまきながら空中を自由に飛び回るイメージを具現化したかったのが始まりである。前回の作品もそうであるが、有

機 EL のシートは曲げることは可能であるが、紙と同様に折ることはできない。断線を起こさない範囲での注意深い折り曲げが必要である。現実には動いていないが PIC IC を使用し発光順序と時間を制御することで、視覚の残像効果を生かし連続的な動作として錯覚することを利用した作品となっている。



水辺の生物 Creature of the waterside

大きさ：h53 × w1000 × d170cm

素材：水、CD・DVD等メディア、コンプレッサー、電磁弁、ホース、IC、タイマー、100v 電源等
発表場所：個展（フェルケール博物館ギャラリーコーナー）

発表年：2011年6月1日－7月31日

このギャラリーの中庭には縦 1.7m 横 10m の方形の池があり、屋外で水を使った作品を実験的に制作する機会となった。近年の筆者の立体作品はICにより時間や動作をコントロールすることで鑑賞者が体験できるものや時間の概念を作品に取り込んだものが多い。今回はその傾向を踏襲しながらも、機械的なイメージが強くないように配慮し、その動きが生物的な温かさを持ち、ユーモアを感じさせるような心がけた。それは例えばギャラリーの窓越しにその作品を眺めていると突然窓に向かって水が吹きかけられるといったことである。

制作過程としてはまずCD・DVD等のメディア2枚を湾曲接合し中心にホースを通した。その一方に小さな穴の空いた栓をしてフローティングオブジェクトとして水面に約50個を浮かべた。そしてコンプレッサーからホースを経由して圧縮空気を送り、それらのオブジェクトがランダムなタイミングで水面から少しせり上がりながら水を吹き出す仕組みとした。作品の挙動は10個の電磁弁とPIC ICによるプログラミングにより出来るだけ自然な動きとなるよう制御した。

